月謝の袋を失くしたあひるさん

村山籌子

青空文庫

あひるさんは泣きながら学校から帰つて来て、お母さんに申しました。

「お母さん、先生から頂いた月謝の袋を落したの。先生に叱られるといや」

お母さんはおつしやいました。

「あひるさんや、カバンの中をしらべて見て、なかつたら、明日、先生によくお話しをなさい」

そしてお八つの牛乳を下さいました。けれどもあひるさんは一口も飲みません。

「あひるさんや、さあ、お飲みなさい。心配をしないで。とてもあたたかくて、うまい牛乳ですよ」と、お母さんは、あひるさんの口に牛乳の瓶をおしつけました。すると、あひるさんは、牛乳の瓶をはねとばしましたので、折角の牛乳が半分こぼれました。

そして、あひるさんはベツドの中へもぐり込んで、

「お母さん、今すぐ月謝の袋を見つけて下さい」と、わあ〳〵泣きわめきました。お母さんは家中をさがしましたが、月謝の袋は出て来ませんでした。

あひるさんはベツドの中で、涙でグツシヨリになつて、

「ああ、私が月謝の袋屋さんだつたら！　私はどんなに幸だつたらう。私はこんなに心配しないでもすんだのに。そして私は月謝の袋をなくして、心配で心配で泣いてゐる世界中の子供に、一枚づつ、ただで上げるのに！」と思ひました。けれども、あひるさんは月謝の袋屋さんではありません。ほんとにかあいさうなあひるさんです。

ところが、その晩は大変よいお月夜でした。学校の先生の烏さんは、散歩に出かけて、あひるさんの家の前を通りかかりました。

あひるさんのお母さんは先生に申しました。

「先生、うちのあひるさんは月謝の袋を落したといつて、泣いてばかりゐて、牛乳も飲みません」

烏先生は、ベツドの中へもぐつてしまつたあひるさんを、ベツドから引出して申しました。

「月謝の袋は明日あげますから、早く牛乳をお飲みなさい」

そこであひるさんは、やつと泣くのがとまつて、こんどはそれは〳〵うれしさうに、ニコ〳〵と牛乳を二本半と、御飯を四杯もたべて、ベツドの中へはいつて、明日の朝まで、グツスリと眠りました。

安心して下さい。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「子供之友」婦人之友社
　　1932（昭和7）年12月
初出：「子供之友」婦人之友社
　　1932（昭和7）年12月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年5月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

月謝の袋を失くしたあひるさん

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/